

生徒指導便り

令和4年 1月

2022年になって半月が経ちました。大変遅くなりましたが明けましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

新型コロナウイルスに関しては年末まではほとんど新規感染者がいなかったのですが、年が明けてから急速に増えています。特に、人吉球磨地区は第5波の時をはるかに超える新規感染者が毎日報告されています。感染するリスクはゼロにはなりません。できる限り気を付けて生活をしていきましょう。また、誰しもが感染しうる病気です。感染者に対する誹謗中傷などは絶対しないようにしてください。

さて、今回は「**成年年齢の引き下げ**」について取り上げてきたいと思います。令和4年4月から成年年齢が18歳に引き下げられます。

民法が定めている成年年齢は「一人で契約できる年齢」という意味と、「父母の親権に服さなくなる年齢」という意味があります。成年になると、親の同意を得なくても、自分の意志で様々な契約ができるようになるということです。

例えば、携帯電話を契約する、一人暮らしの部屋を借りる、クレジットカードを作る、高額な商品を購入したときにローンを組むといったとき、未成年の場合は親の同意が必要です。しかし、成年に達すると、親の同意がなくても、こうした契約が自分一人でできるようになります。また、親権に服さなくなるため、自分の住む場所、進学や就職などの進路なども自分の意志で決定できるようになります。

さらに、10年有効のパスポートを取得したり、公

認会計士や司法書士、行政書士などの資格を取得したりすることもできるようになります。

また、女性が結婚できる最低年齢は16歳から18歳に引き上げられ、結婚できるのは男女ともに18歳以上となります。

一方、成年年齢が18歳になっても、**飲酒や喫煙、競馬などの公営競技に関する年齢制限は、これまでと変わらず20歳です。**健康面への影響や非行防止、青少年保護等の観点から、現状維持となっています。

成年に達すると、親の同意がなくても自分で契約できるようになります。つまり、契約を結ぶかどうかを決めるのも自分なら、その契約に対して責任を負うのも自分自身になります。そうした消費者トラブルに遭わないためには、未成年のうちから、契約に関する知識を学び、様々なルールを知った上で、その契約が必要かどうか検討する力を身に付けておくことが重要です。

消費者トラブルに巻き込まれた場合や困ったことが起きてしまった場合の相談窓口として消費者ホットライン「**188(いやや)!**」が設置されています。困ったとき、おかしいなと思ったときにはしっかりと相談することも大事です。

文責 岩尾

●注意・連絡事項●

- ・新規に就労を希望する場合は早めに担任の先生に相談してください。
- ・生徒が発熱・体調不良の際は必ず学校（担任）に連絡をお願いします。

承認欲求を満たすためにSNSを利用する子どもたち

自分の意見や、日常生活の様子を投稿したり、他の利用者とコミュニケーションをとったり、趣味についての情報を集めたりと、子どもたちはSNSをさまざまな形で活用しています。しかし中には、他人から認められたいという承認欲求を満たすために使って、SNSにふりまわされる生活を送っている子どもたちもいるようです。

SNSでの友だちの数や、「いいね」、コメントの数を気にしすぎてしまう

SNSでは、友だちの数や、投稿に寄せられた「いいね(※)」の数、コメントの数が数値として表示されます。こうした数の多さを、自分が他人から認められた証だと考えている子どもたちは、決して少なくありません。そのため、友だちの数が減ったことや、「いいね」やコメントが全然もらえなかったことにショックを受けたり、他の利用者の投稿についての「いいね」の数と自分の投稿に寄せられた「いいね」の数を比較して落ち込んだりといったように、そうした数を気にしすぎてストレスをためてしまうケースがあります。

※「いいね」とは……SNSの利用者が、気に入った投稿に対してボタンを押し、共感を伝える機能



また友だち減ってる。僕の投稿、おもしろくないのかな……



この人の投稿、またこんなにたくさん「いいね」されてる

数をかせぐために、投稿内容が過激化してしまうことも……

もっとSNSでの友だちを増やしたい、たくさんの「いいね」やコメントが欲しいという思いから、投稿内容がどんどん過激化してしまうケースがあります。

例えば、公共の場で迷惑行為や危険行為をしているものや、肌を露出するなど性的な要素を含むものを投稿してしまう子どもたちがいるのです。

こうした投稿をすると、批判的なコメントが多く寄せられることがあります。また、過去の投稿などから個人情報を特定され、問題の投稿とあわせてインターネット上に拡散されてしまう可能性があります。そうなると、後から情報をすべて削除することは難しくなります。

実際、SNSへの不適切な投稿と投稿者の個人情報が、インターネット上のさまざまなサイトに掲載され続けているケースはたくさんあります。



SNSはあくまで自分が楽しむためのツールであるということ子どもたちに理解させ、SNSを使うときは、友だちや「いいね」、コメントの数に振りまわされるのではなく、自分のペースで楽しく使うことを意識するよう、指導していくことが重要です。